

図書館だより

図書館日誌

(2016年3月より2016年9月まで)

2016年

- 3.24 卒業式につき図書館を開放 (3/26まで)
- 4.1 入学式につき図書館を開放 (4/3まで)
- 4.1 改正図書館規則施行
- 4.13 Library Week を開催 (4/19まで)
- 5.25 図書連携協議会 (第1回)
- 7.14 電子媒体検討委員会 (第1回)
- 7.20 夏季長期貸出 (8/31まで)
- 8.3 夏季休業期間につき開館時間短縮 (9/20まで)
- 8.6 オープンキャンパスにつき図書館を開放 (8/7まで)
- 9.1 図書館ウェブサイトリニューアル
- 9.5 慶應義塾大学実習生研修 (2名、9/16まで)
- 9.6 西早稲田中学校職業体験 (9/7まで)

【中央図書館開館 25 周年記念シンポジウム】

「日本における 学術出版社と図書館の役割、その未来」

日時：2016年12月12日(月) 14:00～16:10

場所：大隈記念講堂 小講堂

◆基調講演

横田カーター啓子氏

(ミシガン大学大学院日本学研究司書)

橋本博樹氏(東京大学出版会営業局長)

◆パネルディスカッション

<パネリスト>

横田カーター啓子氏

(ミシガン大学大学院日本学研究司書)

橋本博樹氏(東京大学出版会営業局長)

永沼浩一氏(岩波新書編集部)

和田敦彦氏(早稲田大学教育・総合科学学術院教授)

～ Pulsus ～

第2世代のラーニングコモンズを目指して

近年、大学教育において、協同学習を重視しようとする試みが広がってきている。Waseda Vision150 の中でもこのことが謳われている。このためには、その支援環境(ラーニングコモンズと呼ばれる。以下 LC と略す)を用意する必要がある。LC では、移動可能な個人用の机と椅子、ファミリーレストランのような形状の机と椅子、小規模のセミナーや発表が可能なスペース、リラックスするためのソファなどが通常用意されている。今、このような LC を第1世代と呼ぼう。

しかし、積極的に協同教育を支援するには、これだけでは不十分である。IT を活用したさまざまなツールを用意し、それらを学生が有効に利用することによって、更にレベルが高い協同学習が実現できる。また、学生が、アルバイトの応募、留学先や健康に関する相談などが可能になるようなサービス機能も提供すべきである。そして、何よりも、「勉強をする場である」という雰囲気を醸し出すには、どのようにすれば良いのかも、難しい問題ではあるものの、重要な問題である。第2世代ラーニングコモンズとも呼ぶことができるようなこのようなスペースを実現したい。

深澤 良彰：早稲田大学図書館長

大学の心臓、図書館。

Pulsus はその鼓動(Pulsus)をお伝えします。

早稲田大学図書館報

ふみくら No.90

2016年11月18日発行 2,700部

発行人／深澤良彰

編集／本間知佐子・ティムソン ジョウナス・山田美季・竹澤紀子

発行／早稲田大学図書館 〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-6-1 電話 03-5286-1652

ISSN 0289-8926